

科目名	簿記論 I Bookkeeping I						
科目担当者	笠木 秀樹 KASAGI Hideki						
単位数	2	配当年次	1年	授業形態	講義	開講学期	前期
履修学部・学科 [区分]	経営学部・経営学科 [専門教育科目 基礎専門科目] 法学部・法律学科 [専門教育科目 関連科目]					ディプロマポリシーとの関連	(2)(4)
授業の概要	簿記は、現金の収入・支出や商品の仕入・販売など、さまざまな企業活動を正しく記録・計算・整理し、その結果を報告するための技術である。本授業では、小規模な株式会社における日常的な経理実務に役立つ知識・能力を身につけることを目標として、複式簿記の基礎である簿記の原理および記帳、決算などの初歩的な内容について学習する。なお、この授業では、簿記の仕組みと具体的な内容について解説を行った後に、練習問題に取り組み、理解を深めるという形式で進めていく。						
授業の到達目標	① 簿記の基本用語や複式簿記の基本的な仕組みを理解して、説明できるようになる。 ② 取引と勘定を理解でき、取引を仕分し、転記ができるようになる。 ③ 現金預金取引について、記帳処理ができるようになる。 ④ 分記法について理解し、記帳処理ができるようになる。 ⑤ 債権・債務の取引について、記帳処理ができるようになる。						
授業計画・内容	1	授業ガイダンス/企業と簿記					
	2	簿記の目的					
	3	取引と仕訳					
	4	元帳と転記					
	5	基本的な決算の仕組み					
	6	帳簿（主要簿と補助簿）					
	7	現金預金取引の処理①（現金、現金出納帳）					
	8	現金預金取引の処理②（当座預金、その他の預貯金、当座預金出納帳）					
	9	小口現金取引の処理					
	10	売買取引の処理①（三分法の処理）					
	11	売買取引の処理②（掛け取引、前払金・前受金、商品券等）					
	12	売買取引の処理③（手形の取引）					
	13	その他の債権・債務の処理①（貸付金と借入金、未収入金と未払金）					
	14	その他の債権・債務の処理②（前払金と前受金、立替金と預り金、仮払金と仮受金）					
	15	演習問題、まとめ					
授業外学修 (事前学修)	簿記の習得には、継続的に繰り返して学習する必要がある、授業に関して、予めテキストを熟読し、例題に取り組む。（毎週 2 時間程度）						
授業外学修 (事後学修)	授業内容について復習し、学習上の疑問点を解消しておくとともに、さらに進んだ学習を行わない簿記検定試験問題等に取り組む。（毎週 2 時間程度）						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法				評価比率	到達目標との対応	
	定期試験				30%	①	
	小テスト (3回)				30%	①③④	
	ミニッツペーパー等提出物 (毎時間)				40%	①②③④⑤	
成績評価基準	秀：（評点 90 点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：（評点 80 点～89 点）到達目標を高い水準で達成している場合 良：（評点 70 点～79 点）到達目標を一定の水準で達成している場合 可：（評点 60 点～69 点）到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：（評点 60 点未満）到達目標に達していない場合						
教科書	『基本簿記』、三恵社 なお、本テキストは、「簿記論Ⅱ」でも教科書として引き続き使用する。						
参考文献	『合格トレーニング 日商簿記 3 級』、TAC 出版						
その他	初心者を対象として講義を進めるので、簿記に興味のある他学部の学生も受け入れる。初回の授業で指示するが、電卓を使用する。						